



飯田市 歴研ニュース

News Letter

No. 107

The Iida City Institute
of Historical Research

2020年8月1日 発行

飯田市歴史研究所

〒395-0803

長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670

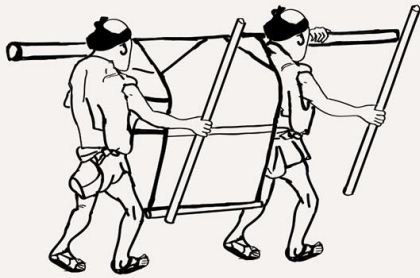
FAX 0265-21-1173

E-mail iihir@city.iida.nagano.jp



一 史料紹介 一 天保11年の大平街道争論

天保11（1840）年、大平を経由して飯田と木曾を結ぶ大平街道で争いがおこりました。飯田～大平間の馬稼・駕籠稼をめぐって、街道が通る松川入に刈敷や薪の採取権をもつ6村（上飯田村羽場、山村、島田村、毛賀村、一色村、名古熊村）と、飯田城下のうち伝馬役を負担する橋北5町（伝馬町1～2丁目、桜町1～3丁目）とが対立したのです。これに関わる飯田藩への訴状や反論書などが、山村北沢家文書（長野県立歴史館所蔵）と新井家文書（歴史研究所保管）に残されています。この争論については、すでに清水迪夫氏（「大平の開発と発展」飯田市歴史研究所編『飯田・上飯田の歴史』上巻、2012年）などによって紹介されていますが、興味深い論点がいくつも含まれています。今回は、馬稼や駕籠稼の実態という側面から、改めて検討してみましよう。

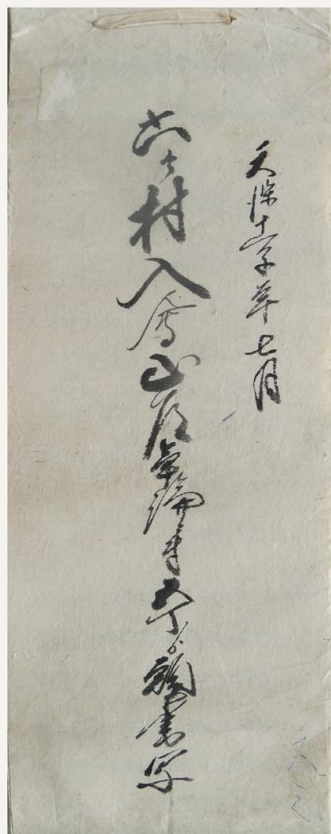


6村と5町の対立は4月から始まりますが、7月になって5町は、大平街道で伝馬役を務めていることを根拠に、旅人やその荷物を運ぶ馬稼・駕籠稼の独占を飯田藩へ出願しました。これに6村は、道普請、病人の救護、病死・行倒人の処理を担っていることを理由に反発しますが、その反論書には、「6村の小前百姓は、農作業のあいまに駄賃稼として、大平へ日用品を馬に付けて運び、帰りには大平の産物（炭・萱・桶木）や旅人荷物、越中・飛騨からの肴荷物などを飯田へ運送している」と記されています。松川入に権利をもつ6村の百姓が、大平街道で馬稼を行っていたことがわかります。

そもそもこの争論は、飯田城下での駕籠稼をめぐり対立を発端としました。善光寺で開帳が行われ、旅人が増えたにもかかわらず、稼が減ったことに不満を抱く「町方・箕瀬日雇稼の者」が、4月9日に5町に対し、駕籠稼の仕来りを守るよう要求したのです。その仕来りとは、「朝の客は5町の駕籠に寄せ、昼の客は堀端で上飯田村箕瀬・愛宕、上茶屋・下茶屋、13町の駕籠に寄せる」というものでした。また、これを主導したのは、上飯田村の者3人と箕瀬の借屋人、中荒町本覚寺の借家人からなる「日雇稼老分の者」（日雇稼の統括者）でした。5町が仕来りの存在を否定したため、数か月にわたる争いに至ったわけですが、この動向からは、飯田城下周縁部の上飯田村箕瀬や愛宕を中心に、橋南13町や上飯田村、さらには城下近郊の上茶屋・下茶屋の借屋人たちが、大平へ向かう旅人を相手に駕籠稼を行っていたことがわかります。同時に、橋北5町に駕籠稼の者がいたこともうかがえます。

さらに4月15日には、大平で旅人荷物の馬稼をめぐり、上飯田村・山村の者と黒田村の者とが口論になりますが、黒田村の者は5町へ金銭を支払うことで「5町の馬」という名義を借りていました。

以上から、19世紀半ばの大平街道では馬稼や駕籠稼が広く展開し、それは飯田城下や周辺の町場・村に住む人びとの生活に不可欠なものとなっていたといえるでしょう。



天保11年7月「六ヶ村入会山道争論二付五丁より願書写」
(新井家文書546)

(研究員 羽田真也)

一 史料紹介 一

転用された川路の全村地図



先号に引き続き、旧川路村役場文書から地図史料を紹介します。『(旧)消防水利図』(整理番号押入軸77)と題字されたこの地図は、縮尺1/3000の大判図でかつての川路村域の全体を描いた地図です。この地図が興味深いのは、明治から昭和にかけての長期間にわたり、複数の用途で利用されてきた点です。

図1 図1は年代記述の部分拡大したもので、複数の年代が記されています。最も古い年代は「明治24年4月」で、貼紙によって隠れていますが、製図人は石井豊次郎という人物です。旧川路村役場文書で確認できるもっとも古い測量地図は、明治23年8月の地図(旧公図、整理番号 二次分C-2)であるため、この翌年に製図された地図ということが判明します。図の内容から判断するに、当初この地図は、村内の道と水系を描いた全村道路図として作成されたようです。その後も明治43年3月と大正2年10月に道路図としての訂正が加えられていることがわかります。しかし、昭和3年に開通する鉄道路線は描かれておらず、天竜川の岸边は空白のまま残されています。このため鉄道開通の頃には、本図は村の現用の道路図ではなくなっており、これとは別に新しい全村道路図が作成されたことが推測されます。

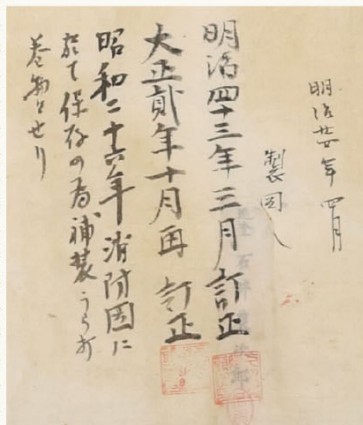


図2 つづいて年代に関する記述の最後の3行を確認すると「昭和二十六年消防団に於て保存の為、補装うら打(ち)巻物とせり」と書かれています。ここから道路図としての役割を終えたのちに、正確な開始年代は不明ですが、村の消防団の水利地図として再活用されたことがわかります。消防団の水利図として転用されたため、この地図には溜池や家並みの情報が上書きされており(図2)、消防目的とはいえ、当時の住宅地図として読むことも可能です。年代が特定できないのが難点ではありますが、本図は昭和36年の大水害以前の川路の町並み景観を想像するうえで、大変貴重な地図史料といえましょう。



(研究員 福村任生)



人口減少時代の集落景観研究に向けて

樋口 貴彦 (調査研究員/東洋大学)

現在のコロナウィルスの感染拡大によって改めて認識されることになった大都市の過密性の問題と、それと同時に促進された通信ネットワークの普及による働き方の多様化が、思わぬ形でこれまで様々な分野で取り組まれてきた「地方分散型」社会への移行を後押しする機運が生まれています。一方で、中山間地域の山里集落は、地域産業の多様化に合わせて農林業と住まいの関係が希薄化し、近世以来受け継がれてきた伝統的な集落の家並みが失われつつあります。家屋は世襲されずに空き家となる場合もしばしばありますが、世代間で更新されることが多く、また伝統的な集落の変質が、移住者の流入の受け皿となる場合もあり、そのような変質を許容できる集落は移ろうことで持続性を保っているように見えます。伊那谷の集落を訪ねながら、どのような移ろい方が望ましいのだろうか?と考えさせられてきました。

文化財的観点から評価される固有の特徴が顕著な集落のみならず、更新を繰り返して現在に至っている集落においても歴史性は存在します。むしろ、時代に適した変化を受け入れ今後の魅力的な集落の姿を考える際に歴史の変遷の捉え方は切実な課題となります。近年の建築史分野の研究でも、建築ストックの利活用に対する社会的関心の高まりから、一度形成された建築物や集落空間の変遷に着目する「線としての建築史」へと学術的な関心の中心が移されつつあります(『時がつくる建築』加藤耕一、東京大学出版会、2017年)。その手法を人口減少による既存集落組織の衰退や、地縁的接点を持たない移住者の受け入れ等により変化しつつある中山間地域の集落景観の将来を考える切り口にできたらと思いつきながら、次に伊那谷を訪れる機会を待ちわびています。



天竜川左岸の集落

地域史講座

軍事郵便からたぐる川路と戦争

開催日: **8月22日** (土)
時間: 14:00~16:00
報告者: 上河内 陽子
(市民研究員)

会場: 川路公民館

川路村の教師に届いた戦地からの1014通の手紙。兵士は何を伝え、郷里の教師はどう支えたのでしょうか。軍事郵便は時に「元気です」も「戦死詳報」も運びました。手紙を読みながらアジア・太平洋戦争時代をたぐります。

近代下伊那の蚕種業

一座光寺村・伊那蚕業合名会社の経営を中心に—
開催日: **9月19日** (土)
時間: 14:00~16:00
報告者: 田中 雅孝
(特任研究員)

会場: 座光寺公民館

下伊那の蚕糸業は、優良な繭を地盤として発展しました。優良繭を生産するには、高品質の蚕種が供給されることが重要でした。その発展条件を蚕種業者の経営史料から探ります。

各講座定員40名程度とさせていただきます。事前申込みが必要になりますので、ご希望の方は、各講座の前日までにお電話でお申込みください。

(0265-53-4670) ※日曜日・月曜日・祝日は休所
※新型コロナウイルス感染状況により、中止または延期する場合があります。

定例研究会

国策の線に沿って

— 「社会主義者」
羽生三七と満洲移民 —

開催日: **8月8日** (土)
時間: 14:00~16:00
報告者: 本島和人
(調査研究員)

会場: 鼎公民館

近世の天竜川をめぐる争いと
河原の利用
— 下川路村・時又村・今田村を対象に —

開催日: **9月26日** (土)
時間: 14:00~16:00
報告者: 羽田真也
(研究員)

会場: 鼎公民館

飯田アカデミア2020第92講座

都市の歴史と保存活用の考え方 —日本とアジアを例に—

10月3日(土)

第1講 13:30~15:00

アジア都市の保存と活用を考える
—動態と更新の歴史から

第2講 15:20~16:50

都市の領域はどこまでか
—災害から浮かび上がる日本の未来像

たかむら まさひこ

講師 **高村雅彦**さん(法政大学教授)

会場 **飯田市役所 C棟3階会議室**

資料代 **500円** ※高校生以下無料
※1講義のみでもご参加いただけます。



上 水の身体性(東京品川荏原神社の海中渡御)

下 移動する家・人・もの(1800年代前半タイ寺院の壁画より)



講師より

私たちは日本の都市や集落の保存や活用を考えると、これまでではまず西洋の事例や理論を参考にしてきた歴史があります。しかし、日本の都市や建築の歴史は、むしろアジアと共通する点が多く、そこから多くのものを学び活かしていくことが、いま求められています。

一方、日本では地震や洪水などの災害が近年とくに頻発しています。そこから見えてくるのは、やはり日本を含むアジア独自の都市や集落に対する概念であって、今後それをベースにして新たなまちづくりを考えることが必要です。

この二つの視点から日本の都市と集落の将来を豊かにするその可能性を探ります。

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。

定員40名程度とさせていただきます。事前申込みが必要になりますので、ご希望の方は9月29日(火)までにお電話でお申込みください。(0265-53-4670) ※日曜日・月曜日・祝日は休所

また、当日、お名前・ご連絡先をご記入いただきます。予めご了承ください。

歴研ゼミ&ワークショップ 8月・9月の予定

会場: 歴史研究所 研修室

※満洲移民研究ゼミと近世史ゼミは鼎公民館にて開催します。

受講生募集!

スタッフとともに歴史を
学んでみませんか。

満洲移民研究ゼミ

担当: 本島和人(調査研究員)
齊藤俊江(調査研究員)

第106回 8月1日 / 第107回 9月5日
(第1土曜日) 10:00~11:40

地域史ゼミ

担当: 太田仙一(研究員)

8月14日/9月11日
(第2金曜日) 18:30~20:30

近現代史ゼミ

担当: 田中雅孝(特任研究員)

8月8日・22日/9月12日・26日
(第2・第4土曜日) 10:00~11:40

建築史ゼミ

担当: 福村任生(研究員)

8月21日/9月18日
(第3金曜日) 19:00~21:00

近世史ゼミ

担当: 羽田真也(研究員)

8月12日・26日/9月9日・23日
(第2・第4水曜日) 18:30~20:30
※9月9日は市役所C棟311会議室

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

8月5日・19日/9月2日・16日
(第1・第3水曜日) 19:00~20:40

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

各種講座、アカデミア、ゼミについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱・咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、中止または延期をする場合がありますのであらかじめご了承ください。

開所時間: 午前9時~午後5時 休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日